

十勝川で確認されたアライグマ *Procyon lotor* Linnaeus

武藤 満雄*・持田 誠**

Mitsuo Muto & Makoto Mochida, 2016. Record of *Procyon lotor* (Linnaeus 1958) in the Tokachi river, Hokkaido.

Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 16: 19-20.

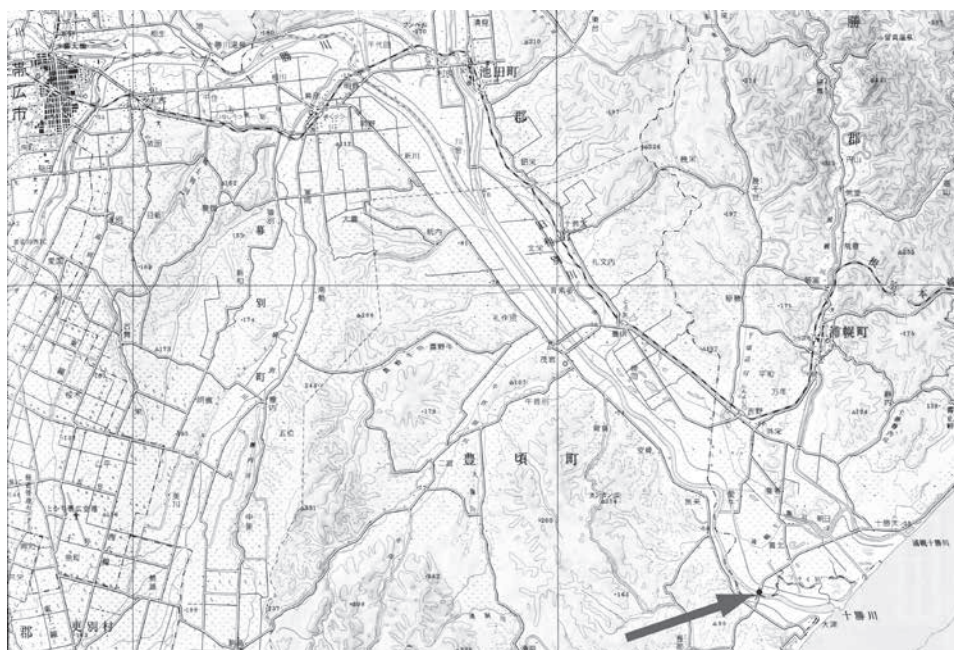


図1 アライグマの事故死体が確認された、十勝川の十勝河口橋の位置（右下の矢印）。地図の左上が帯広市街地。十勝川の左岸（地図の右側）が浦幌町。（国土地理院 20 万分 1 地勢図「広尾」に加筆）

十勝川の河口に近い道路橋上で、アライグマ *Procyon lotor* (Linnaeus 1958) の交通事故死体を確認した。アライグマは外来生物法の「特定外来生物」に指定されている北アメリカ原産の中型哺乳類である（池田 2008）。生物多様性保全や農業被害などへの影響が大きいことから、分布・拡散動向を正確に把握しておく事が重要である（環境省北海道環境事務所 2008）。浦幌地区では、これまで明確にアライグマとされる死体の確認は無かったため、報告して記録とする。

確認したのは 2014 年 7 月 15 日で、場所は国道 336 号線の「十勝河口橋」上の車道である。十勝河口橋は十勝川上に架橋されており、地理的には北海道十勝郡浦幌町の南部および中川郡豊頃町北東部が接する町境界にあたる。死体は後頭部から背面にかけて損傷が見られ、前夜のうちに走行する自動車と衝突したと思われる。

浦幌町内では、国道 38 号線などの路上で、エゾタヌキ



図1 十勝河口橋で確認されたアライグマの事故死体。（撮影者：武藤満雄。2014 年 7 月 15 日）

Nyctereutes procyonides albus (Beard, 1904) の交通事故死体を見る事が多い。しかし、死体には①尾に明瞭な縞がある、②眉間に黒い筋が入っている、③耳の縁が白いの 3 点か

* 浦幌野鳥倶楽部 〒089-5636 北海道十勝郡浦幌町字万年

** 浦幌町立博物館 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町 16-1

らアライグマと認められた。

今回の確認地点は、浦幌・豊頃両町の境界にあたり、どちらの町由来の個体かは不明である。北海道の調査によると、2015（平成 27）年度末の段階で道内 147 市町村からアライグマの生息・目撃が確認されている。しかし、この時点で浦幌、豊頃両町からは確認情報が無い事になっている（アライグマの生息市町村数と捕獲数等の推移：北海道ホームページ <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/araiguma/gennjyo25.pdf>）。

一方、幕別町や池田町からは既に確認がされていることから、今回の個体がこれらの町から移動してきた可能性も推察される。しかし、いずれにしても今回、十勝河口橋上で交通事故死体を確認された事で、十勝川河口域でも既にアライグマが侵入・定着している可能性も捨てきれないことから、今後、浦幌・豊頃両町における本種の情報を積極的に収集し、現状把握に努める必要があると考えられる。

引用文献

- 北海道環境生活部. アライグマの生息市町村数と捕獲数等の推移. 北海道環境生活部「アライグマ対策のページ」<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/araiguma/gennjyo25.pdf>〔2016 年 1 月 31 日閲覧〕
- 池田透. 2008. 外来種問題：アライグマを中心に. 大泰司紀之・三浦慎吾監修, 日本の哺乳類学. pp.369-400. 東京大学出版会, 東京.
- 環境省北海道地方環境事務所野生生物課. 2008. 地域からアライグマを排除するための手引き. 60pp. 環境省・北海道地方環境事務所野生生物課・NPO 法人 Ensition 環境事務所, 札幌.